

柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 68 号
(大 祭)

令和5年12月3日



明治天皇御製

豊年の

新嘗祭

ことなぐて

つかよる今日ぞ

うれしかりけり

日本は主権国家か

秩父神社宮司 蘭田建
神道政治連盟埼玉本部副本部長

今世紀に入り中東での紛争が絶えない中、昨年ロシアがウクライナに全面侵攻したことで、世界の平和情勢は惨憺たる状況に陥っていることは皆さまも連日のニュースやインターネット等でご承知でしょう。平和を愛する我々日本国民は、なぜこのような状況に陥るのかを対岸の火事と看過せず「今そこにある危機」として可及的に捉える必要があります。ただでさえ日本を取り巻く諸外国との問題が山積みされている



中、自主憲法を制定し（憲法改正）主権国家として我が国は喫緊の課題に取り組みねばなりません。現憲法は、GHQの号令により二十代の民政局員数名によりたつた一週間で草案が作られました。紆余曲折があつたにせよ草案はそのまま我が国の憲法となりました。敗戦国に対しこれは明らかにハーグ陸戦条約の戦時国際法違反なのですが大東亜戦争（第二次世界大戦）で大敗した日本は、戦勝国より憲法を一方的なたちで押し付けられてしまったのです。重ねて申しますが、今現在、戦前からの隣国に対する性善説は崩れ信頼関係が瓦解した戦後は、戦争をしないさせない、本当の平和を作るために主権国家としての自主憲法を制定する必要（憲法改正）があります。（特に最近よく耳にする諸外国から受ける理不尽な干渉を断ち切るには真の主権国家としての自立が必要不可欠）今我々大和民族は一人一人が毅然とした強い態度をもって自立ある国體（国の主権の在り方）をめざさなければなりません。現内閣においては、秋の臨時国会で憲法審査会が開催されますが、早期の憲法改正案文化が求められています。

ハーグ陸戦条約（日本では明治四十五年条約第四号、「陸戦ノ法規慣例ニ関スル条約」）の条約附属書「陸戦ノ法規慣例ニ関スル規則」の第四十三条に、「国の権力が事実上占領者の手に移りたる上は、占領者は、絶対的の支障なき限、占領地の現行法律を尊重して、成るべく公共の秩序及生活を回復確保する為施し得べき一切の手段を尽すべし。」とあり、占領軍が占領地域の法律を尊重することを定めている。戦時慣習法では占領者が被占領者に対して憲法のような根本法の改正に介入あるいは命令する事は禁止されている。

解説 秩父神社(66)

杉山正司

◆ 秩父神社宮司家蘭田氏と
関東代官頭伊奈氏(四)

母離縁と廃嫡

忠盈長子早世は、いったいどうしたことであろうか。これ以後は、あくまで筆者の推測になるが、批判を恐れず仮説を述べてみよう。忠盈の正妻が、離縁となつたことが契機となつたと考え

られる。時期は不明だが、それに伴って嫡男であつた平太郎も、母の離縁に何らかの關係があつたとみている。二男の健吉が、系譜上生存していることをみると、平太郎の所業、あるいは彼の存在により、母が離縁となつた、あるいはせざるを得なかつたことが直接の原因であつた可能性が大きい。そのため忠盈は、平太郎を廃嫡したのだが、周囲、あるいは後世の外間を憚つて系譜上は早世として扱われた可能性がある。

蘭田家に入婿

しかし、忠盈としては、長子をただ廃嫡して放逐するには忍びなかつたのであろう。そこで、自らの知行地を持つ秩父。かねてから所縁がある秩父神社宮司家蘭田氏に継嗣がいないうから、嘉行の女を娶せて蘭田宮司家を継がせたのではないかと考えている。名の「行盈」も、養父嘉行の「行」と実父忠盈の「盈」という両



先祖書【忠盈】

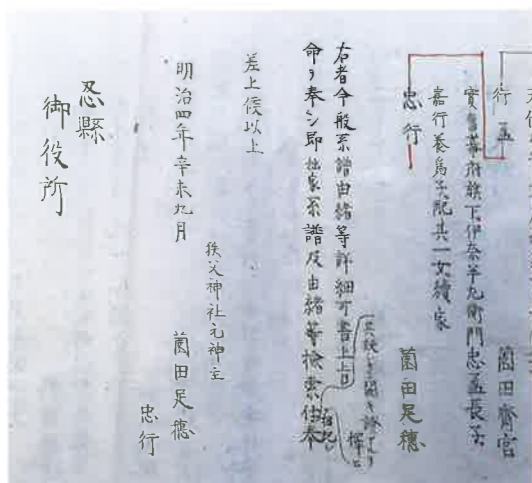
者の通字を、それぞれ一字貴い、「行盈」と名乗っていることから首肯できるであろう。この通字とは、家系を示すために特定の文字をつけることで、徳川將軍家における「家」の通字がそれにあたる。また、「行盈の子「忠行」も、蘭田氏の通字「行」と、伊奈氏の通字「忠」を当てていることもそれを裏付けている。さらに伊奈忠盈の跡を継いだ忠信の子は「忠行」であり、行盈の子「忠行」と同名であるのは偶然であろうか。何らかの因縁を感じざるを得ない。「蘭田氏系譜」の末尾には、忠行が、「拙家系譜及由緒等検索仕、其疑シキヲ闕キ証アルヲ擇ヒ相記シ」と記載しており、系譜は疑わしい事項は記さず、証明できることを採用して記したとしている。忠行にとつて父の代のことでもあり、しかも幕府から明治新政

府という政権が交代しており、何ら隠さなければならぬことではないとともに、確証があつたことではなければ記載できないであろう。伊奈半左衛門家の「先祖書」が蘭田家文書に伝わるのは、行盈が伊奈家を離れても、出自の誇りを忘れないように分与されたものでないだろうか。関連する記録や文書も、同様と考えられる。

以上は、蘭田家文書に残された史料から素直に読み解いた解釈であるが、筆者の仮説にすぎない。今後蘭田家文書や他の史料から、仮説を補強する古文書が発見されることを期待したい。

【訂正】前号一段目末尾から三、二行目を、次のように訂正してお詫び申し上げます。

（誤）弘化五年（一八四八）
（正）天保九年（一八三八）



蘭田氏系譜

神道と仏教 — その共存と複合の伝統 (中編) —

名誉宮司 園田 稔

III 大乘仏教の現実包摂主義 reality-inclusivism

さらに付け加えるならば、神仏のシンクレティズム(文化的重層構造)を、むしろ神道に先立って積極的に進めた日本仏教の側の包摂的姿勢を指摘できましよう。

いわゆる北伝仏教は、一口に大乘仏教と自称してチベットや中国大陸においても、すでに衆生済度の方便として在地の土俗神たちを包摂しながら、日本に伝来してきました。たとえば、8世紀の唐時代に中国の南部、現在の浙江省の天台山に栄えた天台宗は、薬師、釈迦、阿弥陀などの如来諸菩薩を本尊とする諸寺院とともに、天台山に先在した山の神を「山王」と認めて「山王」と称しました。この天台宗を日本の比叡山に招来した最澄も、これを見習って比叡山の地主神を一山鎮守の日吉「山王」権現としたのです。

しかもそれに留まらず、天台宗がその後考案した山王神道が、日本の神々をすべて諸仏諸菩薩の化身(権現)とみなすにいたって、比叡山麓の日吉大社のみならず、全国の有名大社の祭神たちが如来や菩薩などの諸仏を本地とする権現ないし垂跡の神々だということになりました。いわば神道の神々がそのまま神ではなく、本来の諸仏が衆生済度の方便に仮の姿を現世に顕わしたのが諸神なのだ



丹生都比賣神社(うつみじんじや)として鎮座し、神道と仏教の共存を体現する「山王」の守護神(さんノウ)高野山(こうやさん)の守護神

ミズム世界における神々の生命的靈性にも共鳴するホトケ(仏性)の靈的世界が用意されたことになるからです。いかえれば、神霊とも仏性ともして生きとし生けるものに生命の靈性を等しく感得し畏敬するという広大な靈的生命観こそが、神道と仏教とをつらぬく日本宗教の基本的特色なのであつたのです。

近代の著名な俳人のひとり高浜虚子(1874-1958)の名句に、

もの芽の ひとつひとつに 春の神

というのがあります。「待ちわびた春の季節がいよいよ近づいたのか、庭の枯れた木々の枝や草叢をよく見ると、もうこんなに新芽がふくらんでいる。まるでその一つ一つに若々しい生命を育む春

水に見え隠れする菩薩(千手観世音菩薩)の姿として霊場とし、比叡山や高野山の峰々の神秘なたずまいを自然のままに仏たち曼荼羅の理想世界とするなど、自然の豊かな景物をそのまま「悉皆成仏」の靈的世界とみなすのも、虚子の名句に見るような、万物に生命の霊が宿するというアニミズム的な土着の世界観とあいまってこそその宗教文化であつたといえましよう。(次号の後編に続く)

という論法です。つまり仏の世界が現世に出現したのが神の世界だということになる。こうして仏教の寺院は神道の神社を包摂する形で共同体の内部に土着することができたのです。とはいへ、だからといって仏教が完全に神道を吸収し尽くしたというわけではなかった。やはり寺院は神社を管理することはあつても、神社を寺院化するわけではなく、神社は神社のままに神道式の祭祀を抹消することは決してしなかつた。その大きな理由は、天台宗が所依の經典とする法華経が「諸法実相」を主唱するなど、要するに日本仏教が現実の世界をそのまま仏の世界と認めるという、いわば「宗教上の現実包摂主義」の立場にあつたからです。真実は仏の権化であろうとも現実はあるがまゝの神として、僧侶たちも神社を大切にし、神前説経して祭神を和めつつ彼ら自身の仏道修行の成就を願って神の加護を祈つたのです。

IV 日本宗教の靈的生命観

このように出家の僧侶でさえ、異教だからといって神道の神々を忌避せずに崇拜の対象にしてきたのには、実はもつと日本仏教ならではの深い理由があります。

それは、根本仏教の因縁生滅説にもとづく有(存在)の全否定、すなわち無常無我という徹底した自己相対化の追求もさることながら、大乘仏教の「悉有仏性」と「悉皆成仏」という広大な慈悲の精神こそが、結局は神仏を隔てぬ信仰を育てることになつたのではないかとこのことでは「一切衆生」といい「山川草木」ともいつて、人間ばかりかあらゆる動物や有情無情にまでホトケ「仏性」という靈性(spirituality)が内在して、だからこの靈性を促して成仏させるのが広大な大乘仏教の慈悲なのであります。なぜなら、これによって神道のアニ

【表紙歌解説】

明治天皇御製(とりにふれたる) 豊年の新嘗祭(にいなめのまつり) ことなきて つかふる今日ぞ うれしかりける

口語訳

今回本誌の表紙に掲載させて頂いた御製は、明治天皇さまのお詠みになられた九万三千首余りにも及ぶ御製の中から一首を拝借致しました。

一年の収穫を感謝され新穀を陛下御自ら捧げられる新嘗祭に際して、一年の農事も無事に終わり例年どおり豊作となつた上で新嘗祭に御奉仕できることのお喜びをお詠みになられた明治36年の一首であります。

出典

『新版 明治の聖代』 発行日 平成二十四年七月三十日 (編者・発行者 明治神宮 製作者 錦正社) 356頁

【表紙絵解説】

この度の表紙絵画は、今年に修理復元された御社殿北側より代表的な彫刻である「北辰の梟」とさせていただきました。体は南に向き、頭は北を向いて昼夜問わず御祭神をお守りしています。

梟の頭が向いている真北の方向は北極星と北斗七星を神格化した妙見菩薩が現れる方角であります。また、妙見とは善悪や真理を見通す菩薩という意味であり、夜でも見える目を持つ梟が瑞鳥として相応しいと言えるでしょう。

御社殿保存修理工事進捗状況

設計監理 株式会社文化財工学研究所

はじめに
現在進行中の秩父神社御社殿修理工事は、社殿外部の彩色(建物に直接描かれた地紋及び彫刻)や飾り金物の修復を主とした修理工事となります。令和元年度から始まり、工期の延長を経て、来年度の令和6年度に竣工の予定となります。

本殿背面の彩色修理について
今回の彩色修理では原則として昭和42年の修理工事(前年の台風被害による拝殿半壊からの復旧)で行われた彩色を現状踏襲とし、修理前と同様の配色で塗り直しを行いました。ただし、伝統的な彩色手法から逸脱する部分や、彫刻の形状及び類別等から適切な彩色に戻すことができる場合については、今回の修理で彩色の変更を行いました。

彩色の変更がありましたので、以下に述べさせていただきます。
中央の枇杷板には、木兎とその周囲に鳥が数羽配されています。木兎以外の鳥は、修理前の彩色からは種類が判断できませんでしたが、彫刻の形状及び類別より、今回は三光鳥、瑠璃、雀として彩色を行いました。
両脇の枇杷板には、阿吽の関係となる鳥が対になって配されており、修理前は鳳凰や鸞などの霊鳥に施されるような極彩色で配色されていました。ただし、彫刻の形状及び類別より、今回は霊鳥である山鶴として彩色を行いました。
また、枇杷板に描かれた植物などの板絵についても、古写真や痕跡に従い彩色を復原しました。
なお、本殿背面の軒廻りや長押の飾り金物は、本殿正面と同様に修理し、修理前と同位置に取付けました。
おわりに、今年度で主たる目的の彩色修理が完了となり、11月には足場が取り外され、社殿全体をご覧いただけるようになり、拝殿建具の復原や外構整備といった他工事がまだ残されており、無事に令和6年度で竣工を迎えられますよう、今一度気を引き締め、業務に従事して参りますので、よろしくごお願い申し上げます。



社殿彩色修理完了 拝殿正面全景 社殿彩色修理完了 本殿背面全景 本殿金襴巻き完了



本殿背面中央 枇杷板彫刻 木兎・三光鳥・瑠璃・雀・土坡 (板絵: 柏・万年青・笹・土坡) (左: 修理前/右: 修理後)



本殿背面東側 枇杷板彫刻 山鶴・土坡 (板絵: 椿・笹・土坡) (左: 修理前/右: 修理後)



本殿背面西側 枇杷板彫刻 山鶴 (板絵: 梅・笹・土坡) (左: 修理前/右: 修理後)

氏子青年会報告

正田裕幸氏
優秀氏子青年表彰受賞



七月八日、全国氏子青年協議会創立六十周年記念第六十一回東京大会が明治神宮会館にて『繋げよう繋がる』を合言葉に全国各地より六百名を超す氏子青年が集結し開催されました。
大会当日は畏くも彬子女王殿下の御台臨を賜り、厳粛かつ活気に満ち溢れた雰囲気の中、当会第六代会長正田裕幸氏が「優秀氏子青年」表彰の栄に浴されました。
正田氏は当会結成当初より辣腕を振るわれ平成十六年、会長就任

梟だより

宮司就任祝賀会報告

七月二日、当社参集殿神の間に於いて、名誉宮司・大総代・各講元・地区総代・元職員等参加のもと宮司就任祝賀会を開催致しました。多くの皆様より新宮司への祝辞を賜り盛会裡に終了致しました。



時に創立十五周年記念事業として「境内スロープ建設事業」を遂行され、二十年の歳月を過ぎましても、大きな功績であることが高く評価されている。今記念大会での受賞となり、当会にとりましても、名誉ある事績となりましたこと、ご報告いたします。

奉納報告

六月十七日に秩父市日野田町の塩谷租様より秩父夜祭屋台・傘鉦の模型六基を奉納頂きました。当社平成殿ロビーに展示して有りますのでご覧ください。



秩父神社妙見講

七月二十四日 辛手妙見講
高濱彰男講元 外三十六名

柞乃杜神前結婚式報告

- 秩父市道生町 小池由紘・美帆様
秩父市中宮地町 根岸裕朗・千尋様
秩父市中村町 金澤貴之・久美子様
秩父市大野原 松澤留汐・里菜様
未永く幸せなご家庭をお築きますようお祈り致します。

- 九月二日 荒川妙見講
浅海忠講元 外百三名
九月三日 小鹿野講
高橋良衛講元 外五十名
九月三日 中村講
岩田雄一講元 外百六十三名
九月十日 上町講
浜中啓一講元 外二百二十二名
十月一日 上宮地講
大島耕造講元 外百三十一名
十月十五日 中町講
久保忠太郎講元 外百名
十月二十一日 東町妙見講
福井直壽講元 外八十六名
十月二十一日 桜木講
濱田雄司講元 外二十二名
十一月八日 番場妙見講
今井明講元 外七十四名
十一月十七日 野坂講
中村正義講元 外百十五名

◆夜祭限定切り絵御朱印紙

今年の十二月二日・三日は、蘭田建宮司が就任して迎える初めての例大祭・秩父夜祭です。加えて、コロナ禍以降、四年振りに正規の形で奉仕致します。

この時に臨み、新たに切り絵の御朱印紙を十二月一日より六日まで、期間限定にて授与する運びとなりました。夜祭における御旅所を表現して、笠鉦・屋台の背景に煙火花幔を配したものです。

この際、記念の御朱印としてお薦め致します。



2月3日 節分祭ご案内

当社の節分祭(追儺式)は、古式に則った厳儀であり、遠い祖先から承け継ぎ伝え来た神事として、まず天下泰平を祈念するとともに、「一陽来復」各ご家庭の新春を言祝ぎ、家内安全や商売繁盛、身体健康などの特別祈願をお受け致します。ぜひこの機会に多くの皆様のお申し込みをお待ち申し上げております。



令和六年 甲辰歳方位吉凶早見



●本年の厄年

男性	平成12年生れ	25歳
昭和58年生れ	42歳	
女性	平成18年生れ	19歳
平成4年生れ	37歳	
昭和63年生れ	33歳	
昭和39年生れ	61歳	

男女共通 昭和39年生れ 61歳 辰

(この前後の年が前厄、後厄に当たります)

◆お神札を祀る心を大切に

神棚は家庭にお祀りする神様の神社です。お祀りするお神札は、



編集後記

日本の総氏神である伊勢神宮のご祭神天照大御神さまのお神札「天照皇大神宮」と氏神さま(現在お住いの地域の神社)のお神札を一緒に祀るのが一般的です。現在当社では平成殿ロビーにて、神棚展を開催しております。お気軽にお問い合わせください。

十一月を過ぎても夏日を観測するなど地球温暖化を実感した今年も例大祭の時期を迎え、ここに社報第六十八号をお届けいたします。■社殿北面の保存修理工事もあり、北辰の鼻などの彫刻群も美しい姿となりました。■本年は二日宵宮と三日例大祭が土日にあたり、多くの方々にご覧いただければ幸いです。

※ 本報の用紙は再生マツト紙を使用しています。

令和五年(二〇三三)十二月三日
編集 秩父神社社務所
発行 秩父神社社務所
〒360-0044 埼玉県秩父市番場町一―三
TEL (〇四九四) 二二―〇二六二
FAX (〇四九四) 二四―一五五九六
印刷所 有限会社 坂文社印刷所
〒360-0044 秩父市東町二七―八